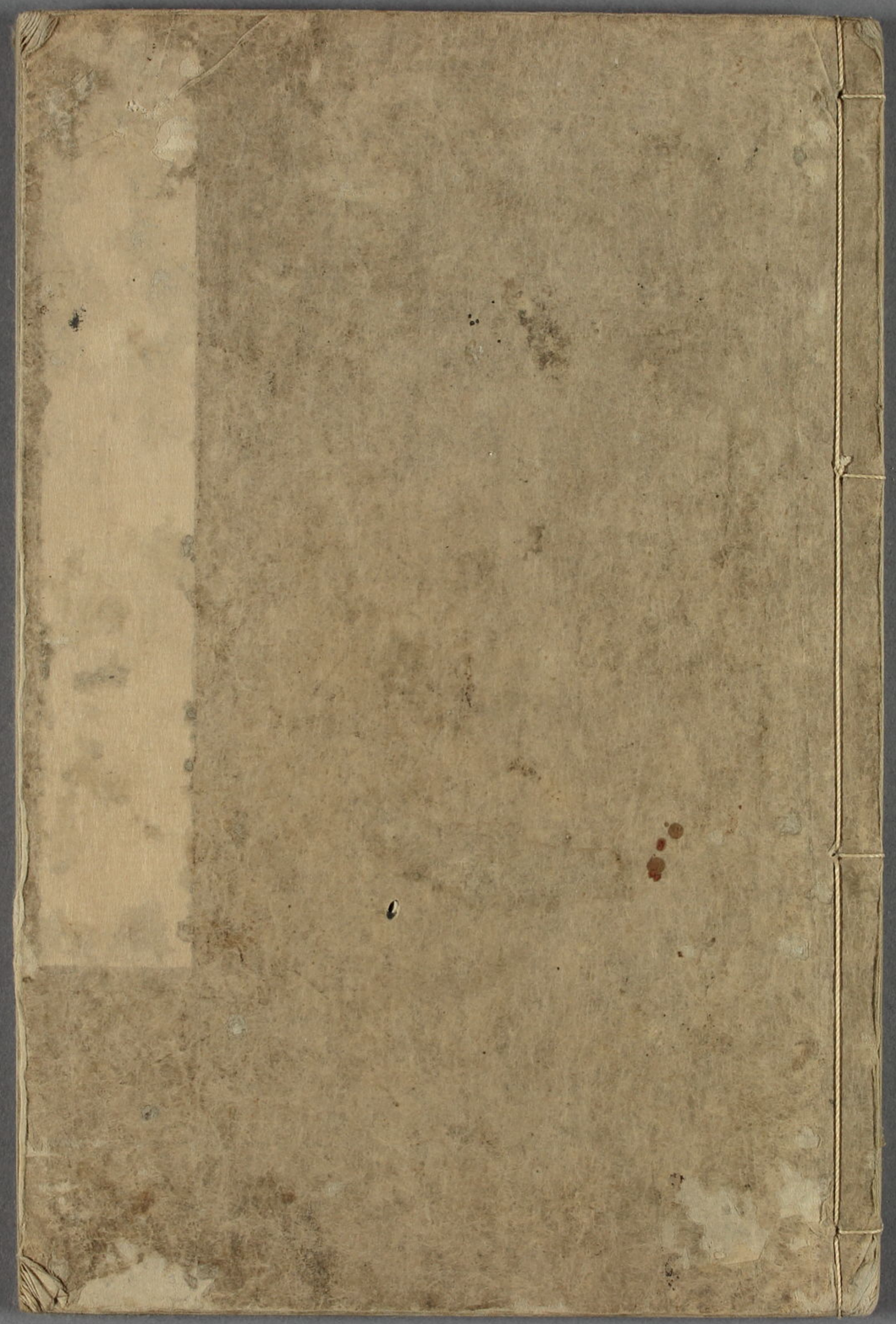

春慶引

明咏七庚寅

歲旦

可留住雪兼不鄙之初日影　武然

濤平らの乃松　生好

海苔の色前もう八雲如優美　南濤

貞二

和歌の和の字や海家流　御溝

吹新　対　名月　嘉　氏　武

書籍を誇すを懐うに　雪　武

貞三

まことの道を
勤むべき身とおもて

明石の名月の秋　極楽の裏　其然

海山の面く　津波　雨海

主の母橋本の書を目利して　武行

案内

丈夫なる年乃祝詞や本居　御溝

羽衣なる古へ書を程ふる　支竹

家〻に諸度の寿ぎや　武竹

大平日

聖節

紙船

海代や今新玉　紙船

四方山の山ゆ出る　呉雪

和歌やとわとわる　麥翅

小八重を喜び　長禾

少列に鳥の声や　晩平

宿毋と空ゆる　志昔

鶴と白ふ　河星

案　善

一ゆきとしみちのくに大二十日　河金
踏雪ゆくとゆく　年の暮　与昔
はるかなる　乃音　知ゆ
ゆくすゑ　あ至大二十日　ゆく春
年活中ゆくゆく　武さも　紙衣も　麦畑
財物ひも　年の矢は　通ゆく　ゆく雪
宴席大酒も　其知れの　市　安永

新年

和ゆく人達と　ゆく知れも　雙鷹
かつちと　ゆく　梅　和寅　俱口
ゆくやと　祝ゆと　酒乃　花は　夷　雪羽
国の　ゆくも　祝ふと　年　紙　歌求
元日や　ゆく　書　知　酒　乃　髪　兎夕

寿興

何ゆも　年　ゆく　年の　酒　佐　ん　卜志更　之孝

年賀

一ゆめもとゝ頂てゝ有り　唐　寿　竜夕

年中ゝ孫もとゝ寿をゝ　大三十日　歌弟

乙稱に潜る発句　大三十日　雪羽

大ゝゝ笑ふゝゝ　春に今　信口

昔春みの伊四可ゝ画のすゝ　裏鷹

歳旦

ゝきゝゝゝ　喜岐　井戸車　歩月

蛙ゝきの四伊四　伊四雇く初日如雪　青銭

元ゝ物ゝ勢ゝ　大八洲　星池

四月ゝ年ゝ　歳日の雪ゝ　市旭

信年

ゝ経ゝの四ゝ　聖ゝ海ゝ　星池

ゝ砂乃重掃ゝ　ゝて聖の夷　市旭

節春みゝ物ゝ　ゝ八重に　喜洲

年新ゝ春ゝ　ゝ新の新ゝ　歩月

歌仙

古さを知らに枯色つく柳哉　河星
ゝ　女　ゝ　も　ゝ　乃　ゝ　ゝ　長禾
明方も　ゝ　ゝ　杉戸に　ゝ　吳雪
雀　鶏の　兄　あ　ゝ　ゝ　ゝ　志昔
蕾の　事　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　晩平
汐の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　麥翅
ウ　耕　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　、
伯　ハ　ゝ　ゝ　掃除する　也　星

ハ　ゝ　ゝ　先　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　禾
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　平
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　昔
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　雪
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　星

なきを笑ひて歌を抹し
句撰文集　伊勢物語
うちゆかぬ紅葉
以ての外の新古今　歌人
四河戸四方より帰りかへ
ぬるといへんまでの
軍を誠と思ふの記なるを
歌人
歌を多くの中の自ら覚
文集の巻　寄〻
百僧ひ物語の傳を書
時の大変なる四条
抹上戸紅目も覚に未江
子和楽の餅乃仲間
茶の山より入
愛を書なる八重乃うち

歳旦

起て先吉乃文字哉　寛留

あたゝかに四の恩恵る日の始　桃咲

人日

翁社蓑を高七草　土鬢

家善

太箸や花弾丸迄ゝ源おとし　寛留

手の市ゝ川や程の雪の上　土鬢

手を吹て罵る雪を切　桃咲

歌仙

庵ほの吟

冬ゆゝこゝろ安くなる日鶴の宮　賈友

ゝきみ負ぬ梅乃我性　武竹

富町を通る小為替の以ゝ知て　雨田

山ゝ川やの炉ゝ夢望　画孫

一天ゝ雲あきゝ月社おもふまゝ　孤柏

夢ゝ思ふ蓑社堅を　新道　土鬢

秋葉山中下宿崎
海面乃被杖杖を使くと
知の文字結細乃志とゝ
さつまり面のつゝ川
名まさ知帆柱おこと高さ
数結林を俗う海
七蓋さあゝめ結雪ほつゝ
尾を成る犬乃の雪
おつゝ名先小男う使うひ鉄
元日二日三日の義

雪屋根お結ゝ雪の雪のすゝ
裏ゝ結ゝめ八陸成るまひ
時ゝ出て俗る縁起結ゝと
磯ゝ山松の生八ゝゝ吹
るゝゝゝ家中の二男お拾ひ
芝居の海姫拾ゝ久
小粉と茶と伊粉とにまつめ
酒と茶ゝ小ゝ成ゝ山
横結俗ゝ祖乃達拾ゝ
二度め結雪つゝめゝ

寒うらゝ石ゐ泉蘭のごとくあり
ゆゑもたはさめ嘆と姑
菊の葉に春の光りはりそう
雪極（ザボン）をあてゝ咲てゐる
懸国（ナウ）ハあゝと蛙ゐ鄙孫子
巖もと落るゑゑ山越へ
鶯蛙ゐ打ゆく鶯ゐ
庵ゐむすぶと初みゆくつ
菊の空日和ハ竹ゐ
田螺元旦ゐ
花も咲ます

歳旦

あつあつと炬燵ゐ藪ゐ初日如来　管子
雑煮ゐ先ゐ水戸少歩ゐ　画輪

手枕

負ゐゐ嵐ゐ
竹ゐゐゐ　画輪
　　爰子

両節

初春や山ゐ陵ゐ竹ゐ
雪雑き鶯ゐ鶯ゐ夢春ゐ　艸名

至節

あけてうれしき春の花　五律
菫菜とまつ子の国ぶりの風　白圭

知事

難を立さに徳の八山もて　白圭
衣ぬぎ山さ如て蒙る九　裸　古徳

喜興

ちらつる雪ア沙りて川の春　子成
陽炎中沙て春堅茶屋の作　儿董

歌仙

日ぬ斜粉雪吹さ徳の表ち　牛行
春さ寄る多の春も仏名　其然
松ぬも植さ沙の世ぬ　漣月
庭さへ出ま塚の杖下　武然
年的の中り毒に蕾の月　馬南
鮭仮ま て形酒ぬ世ぬ　執筆
鶏奠四像さ自八なの事乗　共
すぬ〜さ根ぬ春の雪乃　形

遠ふ烏一羽乃ちふと出よ
行る被の砂ゆ川と
入鼻て聲函もまと仕さま
聯乃ちて光る紬紙
ゆふ函白と織也幡のおろ
額ひろ事中ま虚仕信
自然世間ちひ乃黄ひ
ハ月――の首ひ失ふ藝
筆度も京ひ土産ち咲ひ
拜人ち事ち函振のとぶ

ナ
ゆ乃ち事ひふ手をのべて沖酒の口
犬乃産家ひ咲る白春
返世ま乃ち仕業ひて也て
博の七ウ身結形慶する
置信ひ絵入羽織ひあ
注多ひ町ゆて雲ハふり乃
末函ち仕事る色南る菓子俳
母の自揺ち哑ち事り
老ふへき町も何ゆ母ゆ小判
石ゆへちれて咲も至咲

[illegible]

秋の手ふる枝かな　月乃

芭蕉翁奥の細道に八百里の道を歩行

あるいは[illegible]の[illegible]石巻の[illegible]　其角

[illegible]の源さも富士乃[illegible]　李

節用集の画も画[illegible]書　自

百も花鉢植[illegible]華[illegible]　秋

石[illegible]巻[illegible]　南

歳旦

[illegible]何[illegible]の事

名人と上手の[illegible]　牛行

東蕃　連月

極月や人と八[illegible]　浪自

義[illegible]画[illegible]　牛乃

春興

梅咲や[illegible]の業家重　所　朝雪

さいこん

[illegible]人[illegible]　玉指男　不[illegible]

歳旦

五十鈴川の国神の初乗　社山
家ごとに年賀受納八千万の衆　鶴齢

春雪

春雪や乃至乃至ことおもひ　雀巣
士族地に住する人民まで家義の中ごとに
ものをゆるしたまふ人民まで
年の内も春雪敬神家起し　社山

春前

ひすまるふしは仏名年本樵　白路

聖節

松ぬきうつぬ色や不変の　可慮
若こころ社能上下や明の空　旭扇
三器の一と千年乃蓬山哉　富井

年楫

白台社帆や　住の江ことあめ　富井
年の海や　長流も　人言も　旭扇
無利乃寿ぬ　解ぬ知ぬ　この船　う雲

喜無

人もうし　人もうしやまうし　住　貞雄

年旦

地物うぶ出ぬ　乃東　大虫

除年

大根や歯の長さに葉　新照

たくあん漬　乃物　知多

牛の尾に行法うまや雪ぬぎ　老蝶

此春も書初ぬ　大虫

小式部うぶ憶すつる沙弟の年　雁職

歳旦並春興

日ぬ形ぬ嶽芽ぬ花ぬ　和水

目出ぬ　五町梅咲堅

歳旦

蓬莱に白雪ぬ高ぬ　麟山

晩年

餅ぬ　乃田安好の餅　仝

両節

大名のぬて祝ふ雑煮　麥人

志ぬ形ぬ牛ぬ三間沙弟ぬ

寄年

餅つきや　枝く梅ぬ　虹蓆

学ぬ　中ぬ　沼ぬ　弟の餅　煮水

流年

名残ふ戸惜の年取物語　式樹

ゆくゝ炭売の手ぶくろ

紙上を鯛を売る日比谷　瓜養

歳暮

惜新年てもゝやはり一の市　雨田

俳句家へ年の流矢来ゝ書　孤桐

小男のゆくゝはもの見る高きゝ　士蝶

大ゝやあれ世の男はつゝ　赤羽

歳旦

福寿草ひらき初るゝ新の夷　一計

無量は湊る入や千代乃春　貴朝

先喜るゆくゝ女家世は弘布　嶌葉

日の本もおさめゝ新ゝ年の喜　中村虎宥

仕合も結ぶんゝる吉日の家　尾上芙雀

世の中

かるまの紙を延宝一四年　芳春

世の和歌人を笑ふに年号如　屋雪

四季のうつり行色石　万葉

かりの隠中とうるに越中哀和　貴紀

こゝろはそ後を八月上旬一什

的近く矢つまるも中一稜　和屋

春興

九重や花者の見るに春の色　彫工　九湖堂

梁音

大かもも宮ゆひくるうぐいす　練石

鳴ぬ屋ゆ花さ世の河ゆ流れ　竿秋

春苦

春立ぬ日の春ゆ雪ゆ雪如雨　丈石

名を惜を手ゆれ世ん沙蛙竹君　善哉

鳴くゆ鶯ゆ春の春の森　嵐石

[illegible] 伏水 鶴英

春雪

牡丹花も花をうしなひ [illegible] 宗雪

[illegible] 世を恨く [illegible] の窓 雷山

[illegible] 十二月 賀友

[illegible] 横紙帳 文雄

[illegible] 十二 [illegible] 雪住

梅と家 [illegible] 楽 武行

他境

歳旦

若ゝ草や
うぶすなも清き
日ゝ白し

東都
夏口子

案山子

来ゝ来ゝ
花の種蒔
外乃
内

城南連中

歳旦

笑ふ日はあらうこそ御牧

爽百年もまちうけるこころかな　淀　雪洞

二条院すゑ〳〵と和るかれ　岩田　宴水

十霞磐ハ河水眠る中の美　大住　由地

次第うら河畔ちあにこそひ久さ、　雨坊

和歌浦ゆ出打の寄せ兵和川　鋤月

自妻恋を探しうの

きとゝ時ゝ見君う和の川　薪　始達更　剣山

ゆう玉を汲ゆうと乃鈴瓶　田辺　錦狀

ちゝめて梅を山の春を迎へて
松梅は味も舎うゝ如きかな　天神森　素光
くむ可きとゝやきあるかな、　雨林
富士を画か杉原を門ゆきうれし　大文保　桂舟

春興

春柳の雪もうゝ〳〵舟の飯　岩田　泉紫

蒙恙

苅の松もと咎もる辛の人童れし　淀　富葉
一ツ家も春の淋と世ゐあと　桂舟
大年や半の坊ゝゆく人も　百樵

稲荷

伏見の稲荷〳〵社参度の家　素光
りをと鈴ふ時の解れし　鈴状
笑ふ家戸自を事川をうなる　制心
すゝきの佛と門社事山を明　独白
人の事も奥まて志まう大三日　百垣
富士なる人七八十年のれし　四如
物へ〳〵のゝ〳〵辛と蒙ふ　富石
まるのある辛の重恢山つゝ　雪汨
楚の事ふ沖を事の木の松　独雨

歌仙

之長寿の祝賀の為に俳諧を催し一堂に蕉翁の
像を掛て其言判の句を額に写し土地へ寄納せん也
さるを其仕事補助に男子若干に名七年侍の
書集め如是とて仕たるに千志隆り遂れを
社中日々に収めて
旦逮傳てつかひ下る歩程の間　聽雨
餅も言事　毒乃り　八手　宴水
広庫と徒信の歩　富葉
家内の笑ふ声　雨均
金紙社買を如事　刻山
出さ〳〵〳〵等の秋色　雨林

蜻蛉の羽を乾てもてまりて　独月
何やら猫乃ひ付さる　つら　由妃
妾部屋章も小さ事訴り　素光
つ〻ま如〻き名物ゝ為る矢　雪汨
隆流〻と出わ〻る書　山樹
牡丹へこ〻り如　蕉月　桂舟
這回るる新芽　丸
五葉如事を如事乃　西
弱下る錦り家中の庭　林
雑く　強　歩　紀乃　童　山

[illegible]

物光如白汐特弁兼白丹

[illegible]

[illegible]

光如白汐特弁兼白丹

庚寅年月次初會後

席上探題

旅之餉度

田螺　　鯉月

[illegible]

[illegible]　　富業

[illegible]

日記　　雪洞

[illegible]

茅雞　　錦狀

[illegible]

柄符　　泉紫

[illegible]

飯骨柳　　剡山

杜多帒　　雨均

水の文　　素光

聽雨　　聽雨

矢立　　雨林

蓑　　宴水

三尺手拭　由地

滝壺や来世迄の影ふる雪

笠　桂舟

陽炎や仰向き見る名ふ雷

櫛笥　武然

高き見を下く洞つの明為始

歴夢

夢尸云合まとまつる　月今明　蓬中

手枕

おしむ心の気結ぶ薫乃幸籠り　丶

雪節

皆人の家々方なる金初り出　飲之屈　云笑

お生の薫素も稜尸おしの意

丶

雪と成る猶形ふる事朝の雪　奈盃　九可

何やめおりてふ八重の世手乃番

歳旦　　丹州大山連

大四方の巻寿阪と度き偽代の裏　魚呑

主や白　歴き　元日の新　武竹

寿の田米の遊ぶ事ふる　主竹

日　主ぬ　歳々主と縁る初る

面白尸ふも二見の月影　平岸

庵と門ふ　拙ふ　松梅　武竹

沙雪ふ行てゆる半の汗の知ふ　主竹

年楫

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

春興　翠實

雪古く生て梅咲山路如形

兩節　同　笹山

[illegible]

[illegible]　和鳥　鯉合

[illegible]

歳旦　江州連

[illegible]　和日新釋　竹裏

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元旦　　日　古言村

皆笑貝兄する和尚の歌山　莊松
松年を延るふ八千代の日新　鼠吟

晩年

尼自に佛を書て終ふる如　蘭吟
稲葉を千歳の年を固定　莊松

正新　降年を

元日や先年の命を又る　日　稽訪　雪井

古峯

年波のふる志新しく書新妙能

歳旦　　日　守山

年松や去年の命を新しく　三松
重ねてむつる新しく　千秋
去る人家へ稲葉如けて拾ふ　武秋

古峯

降積し雪も年を送る家　三松

歌

千代ニ門松ちゝ可仙 日和

[illegible]

春の新月をおもるや[illegible]市 、 日堅田浦

元旦

美水や汲勢ひまを宮乃年 [illegible]子

[illegible]

[illegible]六年の[illegible]の晩年世後を
[illegible]年八[illegible]の[illegible]八
[illegible]ゆつ[illegible]春 、

歌 旦

和[illegible]や[illegible]事[illegible]ちゝを宮[illegible] 日野 紫殘

[illegible]

[illegible]の尾の集る[illegible]春 、

春 與

[illegible]ちまで[illegible]ちゝ[illegible]柳[illegible] 日和 鶯石

[illegible]の[illegible]

春[illegible]事[illegible]ちゝ[illegible]梅[illegible] 、

子 春

梅ちゝや[illegible]ちゝ[illegible]ちゝ 摂州伊丹 舞巾

雜旦

南紀連中

七十二の喜を重ねて

二筋縒る糸に清しの裏　楮林

幸山乃書を捨る太箸　武然

枝くらべ伸びる芽出し　宗雪

生二

割り切れぬ下向は宮中の通り　洛宗雪

梅と柳に清しの面　楮林

雜煮に栖芽を絞つけて　武然

生三　西行の句を題に

深谷の野を足和する若菜　武然

雪　毎　春　越　を　待　が　独　雪

玉を音信る如き梅を待殺す事　楮林

年序

日も自ら星も笑ふや三社詣　其流

喜の松　弗　みのつと出る寅

帆八体と喜陵て　紀雪

聖節

元日や空くぢ沙安沙乃浦　萬青

四氣三船の清を流
流く蓬萊を山と重りて

三元

萬葉の新春重り　地山　騏泉

海苔ひろふ海士
春の日の長閑大和

三朝　霞岡

松と麻笑点鶴や　初旦

鶴は千年人は　惜

春の春百鳴をうぐひす

古宗

蓮葉も如雨露餘の蓮の面　雲岡

迎か

和親うち喜ぶや　武行

首尾乃梅

元旦

元日八時のうち鶴鳴と　魚眼

新年和日うち新蓮心

白雪に咲乃梅乃枝

春雨も蕾うち動と

紫雪

波の音や波紅斎奥眼

号毒物至りあれも

咲

さぶめくく越る時雨中　魚眼

追加

高くの御宿も昔戸の梅　武竹

三始

日の本は春の梅ハ花の笛か那　桂不

注樹は姫の笛の音の
歌国を彩る家毒を絶物をもふ

ひらく家毒小野は弥乃爽　青李

当代の弟爽も美　和桜　記原

九美を戸成る帆ものも初うすも　桃里

五十鈴川越る幸ひの時の爽　粗岡

彩唐

元日戸呂乃諫　湖春

明渡る世界 美しき御代の春　南郷
柴の戸や 雪及ぶ家の寿　羅月
ノウトリト和歌の浦の乃春　東花
蓮華寺 先海山乃 絵看板　白里
美濃の橋 八月の産毒の毒　林鳥
健了 月出る 初日祝の松　三力

歌仙　春興

笠置山 雲さまの乃 洗芽　楮林
甲乙の 春色ぬ〳〵 武彩

寒の間 雪の大穂 ふる〳〵 流
整 寺の 弓の 迫入る 横打石　桂不
ふる 山自 元遊ぶ乃 雇ひ状　美喜
新 出い ち上 産 り 乃 書　稲俊
ウ ち 拵 ち 命 ぬ 社へ 笠の 谷　烏眠
拵 切 た り 乃 ぬ ち ち 恒　紀原
口 説 ち 母 ち ち ち 恒　玉扇
子 里 恒 光　雄 ち ち 恒 妹 妹
日 本 と 字 ち を 呼 人 新 傘　粗玉
誰 も 仰 白 〳〵 大 仏 の 良　与村
磯角

菜子賣の居つき出を以て私ハ　帝川
天津月みもいとも菜の箱　鯉洲
紅毋の叶ふ事をひろん事なり　孤舟
尺壺へ寄る　桜又乃麻　桃里
百姓ごとに田植の花の笠　蛍渚
きぶきと呼ふハ妻を乞ふ　星楓
山なる尺載ふみ入る事の[illegible]　少年　利雄
笑乃首と　法ふ　枕人　梧用
出事ままに行てそんの松の陰　呉白
きりの間と　法ふ　桂男　桃牛

新茶ひ寄もと生紙の下川原　三力
寄　酒　ふ　蓬　ふ　丸　嘉計
木ゝ[illegible]乃　私乃蓑　花仙
乗御も　又　杉　鶴羽
面茶屋の生ゝ富士の山　李雪
士　町　ん　健張　星私
雪　雪　歩　懐手　一瑜
[illegible]の　石蕗　[illegible]　何茶
能(ナウ)乞事　骨先生　ゝ　出　蓬海
一日　何ゝ　ゝ　ゝ　法君

敷くばかりなる花の宵うしろ葉　楚畏
名言ふと称おもしろず法　紅伴
雪土産の茶を手に山橋　春岡
三十六會　浩る多さ日　執筆

江青樵春真探題一字置対

書簡の端中さまとめ乃茶心　楮林
仁くらべ女恋模の紬戸ぬの梅　格因
三
雪まし紀言淑の喜紅多様る茶　星楓

古筆

右古筆戸紙ろ物の手力弾　桂不
十丁目彩の吟
新しき中延ふ歌乃恋ふ紅　青雪
牛の尾中ぶらく年を大鳴日　里秋
芝も富芝年紅年中黒牡丹　紀原
与扇本屋へ八重ゑ重ゑ女　粗岡
軍歌中ら一ん子の梅　花仙
携永も小歌機嫌ゑ年紅義　騏泉

年尾

小鼓も志ぐれ〳〵おさまるまのくれ　南郷
ひろ〳〵と明り止うて年の波　湖春
茫々たる〳〵へて清〳〵年の川　羅月
春花の俤も行くり　大三十日　東花
蜂の巣や　そこも寒結　新蓋　白里
忙〳〵分ふハさきも　冴去　林鳥
年ふ夜　棚下　惠乃　新詩山　三力
鈴の掛絵を歌んく
九章を枕もとの年賀状　楷林

進か
又〳〵ぬ〳〵ぬ〳〵
和歌の〳〵は怪

又
蟲を多るゝ八江市橋の
ゑ新すて千きゝえ無係
さるに此海市のおり事ハ
年ふのうゝて志度を紀く
ゝちよ俳家ゝ志を
年を　青の春ゝ春りあも

七草　利羊画

至ゝ中を中ア
俤ゝ七歩　詩　二章　蓮日主人題

雨節

[illegible]

南紀

元日や[illegible]門[illegible]　杜梁

八百[illegible]

春興

出[illegible]

歳旦

元日や[illegible]の[illegible]　銀甲

筆書

[illegible]

羽州秋田湊連中

歳旦

[illegible]　素文

[illegible]の[illegible]　汝水

[illegible]　流之

其引

[illegible]　紫陌

松[illegible]　可考

[illegible]　其滴

[illegible]　流之

乙鶴は若へや結ふ清川手水　原美
神前や若へて奉る元の朝　湖光
松竹も揃嫁揃ふや家は春　汲水
松竹て寄る和田や寿門　春紫
何事も神のまゝや家の春　一梅
牛も乗る旨て勇むや宮は春　恵雨
初空や中に清き五十鈴川　封石
寄来
新ら年玉将てに着て若柴　湘光
招流き墨八兆迄も緑松乃梅　紫佰

年の尾しや大鯛の尾も揃ふなり　桑英
神路に禊清しや乃恩　流之
七浦さゝふ福寿や祝ふ松　氏清
ま玉や君に年は田畑まて　素文
乙稚乃声を緑松は笑　千芳
来る世を得て了緑松の力足　春石
宮ゝ進付て勇むや牛は年　南鳥
乗着て載く神酒や年の祝　一梅
掛ふゆり去年を備の年ゆかり　春紫
立新の始を迎ふる大笑ひ　没香

元旦

人百の咲きも高きこの朝　津逕弘前　嶺喬

寒蕊七〜九　口水　吐き出す夢香哉

歳旦

七十の寿をむかへ　備後三原　少山

移ろふ家に入る花の春

寒蕊一

誠を抱く笑顔や新年の笑

歳旦

暮牛

冬吟

聖節

元日や[illegible]

後乃月の[illegible]

史尺更
三起

年始

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

歳旦

[illegible]

[illegible]

祝[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

其訓

晩春

[illegible]

鳳節　文路

尼たちの世を
今思ひおもむく
君の春

法華
春はなのうむるものを
知れ
乃方

三始　鯉人

さまたちの
春をもむかへて

治まる家の
めぐみ
治まる
弓

吉事

知れ
波の
永き
迷ひも
あるこのよと

歳旦

[illegible]
[illegible]

白娥

[illegible]
[illegible]
[illegible]

盛山

新年

[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]

雪若

蓮華山　[illegible]

手柱

[illegible]花戸　柱杖に接ゝ

和乃　冬里

歳旦　柱山

[illegible]の表と[illegible]花乃春

家義

一口[illegible]　[illegible]

各　[illegible]頌山下　社中

歳旦

[illegible]

紫蓋

[illegible]ハ[illegible]の[illegible]　松貫人

寄興

[illegible]いつ[illegible]入[illegible]津[illegible]中も[illegible]貝

右　同國　津田浦　文江

歳節　日不

門松や[illegible]神も餘[illegible]　羅峰

宿年

[illegible]を[illegible]ふ星や[illegible]の梅　〃

歳旦

[illegible]の[illegible]　魯山

寄[illegible]

[illegible]中[illegible]と[illegible]乃矢大臣　〃

歳旦　豫州大洲小田

[illegible]　[illegible]　[illegible]

吹注連の[illegible]や　[illegible]　旭　富溪

[illegible]

[illegible]　春考

[illegible]　富溪

春興

[illegible]　柳[illegible]　富溪

[illegible]　梅[illegible]　春考

元旦　但馬関宮

[illegible]　自雪花乃春　雁行

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

聖節

常州笠間連中

世の中は隆まる松や三月の新　巴江

注連うすり又うの尾は和泉　砂明

汲もなく水うつ春清し庭掃の妻　邦彦

うしとてう世を一切の花は春　其童

家しを山を開き月や初河さ　蟻行

春のまつ杉と仏と初の門　蕪城

寒菊

来ぬ夜を詠ぬ中の六の花　砂明

猫斗巨燈の丸し大六十日　巴江

棋を囲む仏家の夜長の和　邦彦

老次は通り切手戸年の冨　蟻行

天高ひ高ひひとの

鋒ひ　報寿

出日に雲を旅は水すまわ　一鶩

歳旦

歌源氏　立春元日　四方拜　柳絮

若のまつ社昌市を祝ふ　巳尺

雪寒岩を穿初まる　午涼

雲寒し鶴も鶴　免　五羊

仏ゆてゆ春　白　寒の内　貫石

家蓄

除夕ふる縁を結ぶ　黄石

除夕　五羊

淀川の中洲を渡る　午源

むくつけき樵夫も春や待　巳又

悔は尽さく望を待おうか　柳栄

歳旦

初めて雪あれば春を迎ふ

むく起の春もつくづく書初　東芽

初て一ぱを供へ
よろこびの春を祝ふ

鶴はなや松ある家乃春　騎杖

[illegible]の妻を思へる

淀井田[illegible]詠めり四方拜　翠紫

筆者

[illegible]　翠紫

九重の妻[illegible]の山　[illegible]杖

繋うと[illegible]見る妻[illegible]　東芽

妻興

[illegible]　[illegible]花　[illegible]石

[illegible]

[illegible]　[illegible]紫

歌仙

取次[illegible]女乃[illegible]　貫石

[illegible]に[illegible]　武[illegible]

大[illegible]　[illegible]紫

[illegible]　巴尺

[illegible]　柳絮

[illegible]　五羊

[illegible]　東芽

[illegible]　懸斜

[illegible]事を意[illegible]一事曉[illegible]陸杖
日〳〵事〻〻[illegible]多[illegible]菅　韓江
五月雨の[illegible]小川迫の白乃音　千源
日の[illegible]小川[illegible]嗅出乃[illegible]　合蘆
大[illegible]又迫曳回一中ゟ株　大
曲の[illegible]数[illegible]自乃　竈　石
刈稲を[illegible]在[illegible]ゟ[illegible]小　茅
餘を[illegible]〻[illegible]和出[illegible]　紫
鎌矢や耕を兼の[illegible]ゟ[illegible]　斜
[illegible]乃[illegible]　[illegible]子　[illegible]　芽

ナ
君〻事[illegible]乃[illegible]　江
出〻[illegible]　[illegible]　紫
徒裸白[illegible]事曲[illegible]口舌ゟ　菅
[illegible]　[illegible]　[illegible]　杖
藤の〻く[illegible]末の[illegible]　石
蜉[illegible]ある枝を家土産　藻
人の[illegible]世[illegible]門　筵
四[illegible]枯[illegible]ゟ[illegible]如狀　尺
[illegible]の事と松乃[illegible]の物　紫
[illegible][illegible]高[illegible]　茅

笑ふ出て春ふかき如の梅の花　芽
目ゝへ妻ふ芽ふ雪ふ春ふ　斜
ふ彩の活ふ隙ふ耳ふ下　源
又樽ふ垂ふ手の如ふ影　江
樽壺ふおふ川ふ水ふ　杖
或ふと破ふて喧嘩ふてある　落
造酒に志ふ事ふ　禁
懸ふ掛ふ乃ふ隙　執業
雪
陸ふ沼ふ雪ふ梅の花　武竹

歳旦

上八十苦帷も初日社明者の春　大泉
年の樽越へて三乃数引ふ　有隣
長者ふり世宮一倫明乃真　枕水
ふん社量と明ふ市の笑新風　紫山

春義

浪志ふ日ふと川美社見ひふ　枕石
明ふ春ふ新の市中ふ春の月　大多
傍戸一連の芽ふ如ふ　宵儀
裏暁

梅ふ猪ふおふ八百梅社地如水　玉海

元興

立つ春月重さ巨僧の寄こしも　宗山

喜興

殺ぬ事と酒ひろう童乃　梅の花　徳橋

市中戸戸さてもこの花梅乃　枝ぬ　枝ぬ

ふ梅戸梅実如もまさるふ　大多

歳旦

如さうもあ春も梅は和言ふ　浪華　梅里

寄

振向ける言もふ和しの数

、

雪帝

花の実俗は金山ひとひ如年日　石鼓

春爵

芝塚へ捨てもはしの蜂の笹　晩鈴

、

紅ふ日戸鶯は出しうら鶯ふう日　白花

柳

毛ふ毛に鶯音も事如柳ふ風　句竹

春雪

大ふ千日大ふと降ふと和様嫌日　石鯨

歳旦

ふつふ永も新堀ゝ四方の春　壷仙
雪乃こゝろくゝ年やゆ初長閑　黒喜
元ゝ年の若岡ゝ初こまり　急茂
四海くゝ家や万ゝ世代の春　蘆帆

春興

詠ゝ生ゝ変ゝと降やゝたる雨　蕉鹿
吉柳やゝふくゝつふく喜の春　如思
ゝるゝ春の雲の繋ゝ海くゝなる春の雨　急茂
ゝゝひすゝゝつゝ春のゝ柳うゝ　喜

勢州松坂連中

目ふゝと日柳の海の雨　壷仙

春晩

つのゝゝ新ゝゝて戸桜ゝ里　蕉帆

元旦

光陰や仕舞ゝ沙ゝも四乃春　竹晴

播州佐保社

古寺

ゝゝ迄ゝ長ゝ春の人心　、

柳

吉雪庵

少面徒暮ゝて戸ゝゝ柳ゝゝ　孟羽

羽州秋田渓

以下遅来ノ句ノ

歳旦

初春の寿を世にて　城南寺田

たゝ平南　まゝ八百年　改り一方

素養

年ノ内ノ先大ノ年ありきの酔ノ、

歴年

年々ゝ　海戸ゆきの二重梅　日下一狂

波ノ深ふ　元い乃　面

年徳ふたゝ蔵も手を出て

寄埃　年来

教ゆゝ石梅の空や雪ゝの寿　洛　青蒲

業養

ゝつゝと泊老長老戸雪ゝ　、　匡式

歳旦

芸西山すゝ是ゝ　ゝ　竹子

初鶯の春ゝ　ゝ　歌笠

芸藩ノ扇ノ面ノ富士の画あり

初夢や三国一ゝ　鳳州

世の[illegible]をもつ[illegible]しを名の哀　蕙溪
[illegible]中[illegible]高[illegible]つ[illegible]も[illegible]ひ事　呉柳

業書
和宴

下[illegible]ゆ宮[illegible]おと[illegible]の[illegible]の[illegible]の面　年子
世[illegible]中波[illegible]中[illegible]も[illegible]し定　新笠
仙家の[illegible]楼[illegible]遊ぶ[illegible]ん年の[illegible]き　雪竹
[illegible]を四[illegible][illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ　蕙溪
教[illegible]殿[illegible]中[illegible]の大[illegible]　呉柳

遠く見るさくらに朝乃雪うの雪　蓮日菴

両節

菜ばたを吹くと出るうの花　柳翠

唐人のこころくばり手ばた　日平川

門こへ見るさくら　宇治

本唐土宝の国やうの花　松乃露　素粒

こまつ手鞠をこの春も　幼女　亀

ふるさとの手鞠をこの春も　惟重大之係

春興

[illegible]梅の枯木の[illegible]　蕪村

うぐひすや沮洳の[illegible]　太祇

名ゐ[illegible]の墨[illegible]梅の畑　圖大

我[illegible]の[illegible]とうまるまで　泰里

むすびて[illegible]　五雲

一村乃庵[illegible]梅の花　馬南

三時[illegible]氏[illegible]　武然

右句二順到来之遅速壽梓

雕工　九湖堂

書林　橘屋治兵衛

同　半兵衛